市内の除染状況

【幼児施設の園庭、小学校の校庭】

幼児施設（保育所・保育園・幼稚園）の園庭および小学校の校庭は、表土除去または覆土による除染を実施し、空間線量の低減化を行いました。

また、小学校の砂場の砂の入れ替え作業を終了しています。

【市立小・中学校の側溝】

市立小・中学校内の側溝について、汚泥等の除去を実施しました。

【公園】

公園内で毎時1マイクロシーベルトを超える地点については、部分的に表土除去等の除染を実施しました。また、市内35公園の砂場の砂の入れ替え作業を終了しました。

今後の取り組み

市では、子どもの生活空間を最優先し、幼児施設（園庭は作業済）、小学校（校庭は作業済）、中学校、公園、通学路等について段階的に除染を進めます。

現在は幼児施設、小・中学校の10メートルメッシュ測定を市職員で行っています。データを整理後に除染設計を行い、夏休み期間に除染を実施する予定です。除染実施状況等については今後も定期的にお知らせします。

●問合先

- **農作物等について**
  市役所経済課
  内線262
- **水道について**
  上下水道事務所
  ☎48-1842
- **市立保育所について**
  市役所児童福祉課
  内線151
- **市立小・中学校について**
  市役所学校教育課
  内線281
- **学校給食について**
  学校給食センター
  ☎48-0253
- **公園・道路について**
  市役所建設課
  内線251

放射能とは

▼原発事故による環境汚染

原発事故によって、大気中に放出された放射性物質は、風に乗って広い地域に移動・拡散し、地表に降下しました。その広がり方は一様ではなく、その時に雨が降った地域では、原発から遠く離れていても多くの放射性物質が降下しました。降下した放射性物質は、土、草木、建物、道路等の表面に付着したり、雨に流され、雨樋（どい）や側溝等に集まっていたりします。

▼放射性物質・放射能・放射線

放射性物質は、放射線を出す能力（放射能）がある物質です。放射線は光のようなもので目には見えませんが、物質を通り抜ける性質等を持っています。

放射性物質を懐中電灯に例えると、放射線は光、放射能は光を出す能力にあたります。

また、放射性物質が放射線を出す能力（放射能）を表す単位をベクレル、放射線を受けることによる人体への影響を表す単位をシーベルトといいます。

▼汚染原因となる放射性物質

原発事故で大気中に放出された放射性物質はヨウ素131、セシウム134、セシウム137です。現在まで広範囲に残って環境を汚染し、追加的被ばくの原因となっているのは、セシウム134、セシウム137です（左表参照）。

▼汚染の影響

平常時における日本人の年間被ばく線量は、平均1・48ミリシーベルトですが、今回の事故で自然状態よりも増加することとなる追加被ばく線量を年間1ミリシーベルト以下に抑えるため、市では放射性物質による環境汚染対策を講じます。

国際放射性防護委員会（ICRP）の推計では、100ミリシーベルトを被ばくすると、生涯のがん死亡リスクが0.5パーセント増加するとされています。

一方、100ミリシーベルト以下の被ばく線量では、発がんリスクの明らかな増加を証明することは難しいとされています。それは、他の要因による発がんの影響で隠れてしまうほど小さいためです。疫学調査以外の科学的手法でも発がんリスクの解明が試みられていますが、現時点では、人のリスクを明らかにするには至っていません。

（出典　環境省ホームページ）

▼環境省　放射性物質による環境汚染情報

HP http://josen.env.go.jp/

物質名称	物理学的半減期	特　徴
ヨウ素131	約8日	揮発性が高く、気体として遠くまで運ばれ、雨などと共に降下しました。物理学的半減期が短いため現在ではほとんど残っていません。
セシウム134	約2.1年	沸点が低く、気体になりやすいため、遠くまで運ばれ、雨などと共に降下しました。土に含まれる粘土や有機物に強く結合します。
セシウム137	約30年	